



NAGOYA Ocean Times

—子ども記者が海の楽しさ・そなえ・お仕事を体験・発信—



身近な海で
発見の連続!

新聞記者になって取材を体験!

7月23日(火)～25日(木)で開催された「海と日本プロジェクト NAGOYA Ocean Times ～子ども記者が海の情報を体験・発信～」海で働く様々なプロに、海の楽しさ・そなえ・お仕事を教えてもらい、その内容を自分ならではの文

章にして新聞を作りました。また、それぞれの体験前には「中日新聞社」や「読売新聞中部支社」で働く新聞記者さんに、取材の際に気を付けていることや記事を書く時に意識していることなども教えてもらいました。

日本財団について

海と日本プロジェクトとは?

子どもたちを中心に、海への関心や好奇心を呼び起こし、海の問題解決に向けたアクションの輪を広げるプロジェクト。日本財団や政府が旗振りとなり、全国各地でイベントを開催しています。

取材&体験

海で働くプロたちが実際の現場で海の楽しさや問題をレクチャー

7/23
(火)

海洋清掃体験とクルーズ体験

作業船ではプラスチックごみの回収や、海洋ごみについて学びました。屋形船では、名古屋港で観られる海洋生物について学び、名古屋港と中川運河の行き来を可能にする船のエレベーターを体験しました。



7/24
(水)

新舞子マリナーパークでSUPを楽しむ

人気のマリナーアクティビティSUPを体験。海上散歩やチーム同士のレースを楽しみました。また、ライフジャケットで浮く体験を通して海のそなえを学び、砂浜の清掃では海が抱えるごみ問題について考えました。



7/25
(木)

名古屋港水族館の裏側に潜入!

名古屋港水族館では「マイワシのトルネード」で有名な黒潮水槽のバックヤードで約3万5000匹のマイワシ群に餌をあげました。名古屋海洋博物館では60年前に起きた伊勢湾台風を再現したジオラマで名古屋港の防災について学習しました。



みんなで
考えよう!

Q1 海でおぼれている人を見かけたら、電話する番号は?
①118番 ②181番 ③778番

Q2 海岸に打ち寄せた波が、沖に戻ろうとするときに発生する流れをなんという?
①循環流 ②離岸流 ③沿岸流

Q3 海の中で注意したい危険生物は?
①イルカ ②ウミガメ ③クラゲ

Q4 服を着たまま海に転落してしまったとき、やってはいけないことは?
①急いで服を脱ぐ ②服の中に空気をためる ③力を抜く

Q5 年間800万トンの海洋ごみはどこからやってくる?
①海 ②森 ③街

ライフセーバーの人たち、ありがとうございます。(西山小学校3年生)

なぜ海はあぶないのか、どうして海にはゴミがたくさんおちているのかをみんなで考えた。海はとても楽しい所もいっぱいあるので、ゴミをもっとへらしてきれいな海にしたいと思った。(光成小学校6年生)

海の大切なのは、今日のごとでわかりました。海で1番大切だと言えるのは、ゴミを捨てないことです。(桜小学校5年生)

きれいな海にするためには、ゴミをポイすすることをやらないことだ。(旭小学校5年生)

海・名古屋港は、生きている人、1人1人が気をつければ、もっとよくなるのではないかと思います。(大高小学校5年生)

自分だけの新聞が届いた!

NAGOYA Ocean Times号外発行

書いた原稿が記事になった!

教えてもらったことを書いたメモをもとに、それぞれの体験を通して感じたことを「子ども記者取材記」として記事にしました。自分だけの記事が掲載された「NAGOYA Ocean Times号外」はこの夏の思い出になりました。



もう二度とこんなこと(伊勢湾台風)がおきないように願っています。これからも安全のため、人と人とのきょうりよく、町をより安全にしましょう。(広橋小学校4年生)

ゴミを捨てないようにしたり、おぼれないようにしたりすると海がより楽しくなるのではないかと思います。(大成小学校6年生)

水族館の飼育員の仕事はとてたいへんだと思った。(勝川小学校5年生)

キレイな海の生物たちには絶滅してほしくないですね。(大森小学校4年生)

SUPをやったことで海が好きになった。(豊臣小学校5年生)

海で気を付けることを6つ学びました。1.りがん流、2.津波、3.風、4.飲酒、5.熱中しよう、6.危険な毒を持つ生き物です。(師勝小学校6年生)

